



松島・瑞巖寺の臥竜梅

### 「日本の花」といえば…梅？桜？

春の花、といえはいろいろありますが、真っ先に桜を想像する人が多いのではないのでしょうか？でも、万葉の昔は「花」といえば「梅」だったようです。その証拠として、万葉集には約4500首の歌が詠まれ、150種を越える植物が登場しますが、最も多く詠まれている花は萩で137首、ついで梅119首、桜は42首となっています。「梅」の圧勝(?)です。



### 梅のルーツ

あまりになじみ深くて「日本の花」というイメージが強い梅ですが、元々は中国原産の植物で、はじめは花の観賞のみに用いられました。しかし、次第にその果実も梅干しなどに利用されはじめ、味加減をしめす「塩梅（あんばい）」という言葉があるように、日本人の食生活にも浸透していきました。

### 梅の効能

梅干しはすっぱいものですが、その酸味の正体はクエン酸です。クエン酸は食欲増進、疲労回復、整腸作用、ミネラルの吸収促進などの機能性を持っています。

日本人の生活と切っては切れない関係を結んできた梅干し、昔の人は知らず知らずのう

ちにその効果を見極めていたのでしょうか。



### **実がならない…それは梅の木のせいではありません**

庭先果樹としても梅の人気は高いようですが、「うちの梅、花は咲くけど実がならないで…」と悩んでいる方いませんか？実は梅の中には一本だけでは実を結ばない種類もあるのです。このような種類では別の品種の梅から花粉をもらわなければいけません。違う品種をもう一本植えれば、悩みは即解決です。

### **「大屋梅」知っていますか？**

ところで、横手市にある果樹試験場から車で約10分の大屋地区では、「大屋梅」と呼ばれる梅の古木を地区の各所で見るすることができます。屋敷梅として大切に育てられた木の中には樹齢400年にもなるものがあり、市の天然記念物にも指定されています。この由来は1200年前、奥羽鎮守将軍・小野春風に随行した2人の武将が、この地に住み着くときに持ち込んだものと伝えられています。何ともロマンあふれる話ではないでしょうか？



大屋梅の古木